

麦穂だより

第 74 号

発行 武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎 2020年11月
事務局 川崎市宮前区宮崎 2-2-4 エクセル佐々木 108
村田芳包 TEL090-1427-7260
ホームページ URL (<http://musashinoudon.dokkoisho.com/>)

「饅飩とコロナ」

会長 北條 秀衛

中国の武漢で新種の伝染病が発生したと聞かされたのは年明け早々であった。あれから11ヵ月、間もなく新しい年を迎えようとしている。

非常事態宣言、ロックダウン、クラスター、パンデミック、三密、WITH コロナ、リモート、安倍のマスク、PCR 検査、ソーシャルディスタンス、GO TO (トラベル・イート) 等耳慣れない言葉が氾濫した。今でも、厳しい状況であるが寒さとともにもっと厳しくなるかもしれない。

「うどん会」も大きな影響を受けざるをえなかった。3月27日に自粛要請や三密警戒の中、屋外行事だからと大泉学園に「うどん食べ歩き」を実施した後、10月4日に「特別講習会」を青少年の家で実施するまで、ほぼ半年休眠状態であった。この間かろうじて麦刈りと脱穀、うどんの道具整理を役員で行ったのみである。最も深刻な影響は定期総会の書面実施と創立 20 周年記念式典及び各種イベントを次年度に延期したことである。総会の書面も 20 周年の延期もうどん会の歴史始まってのことである。それだけ 2020 年は異常な年であったが、今後も完全なワクチンができるまで WITH コロナの時代は継続される。三密対策や手指消毒、マスクなどの対策をとってクラスターの発生を防ぎながらどう

活動を継続するか。講習会は過密対策として午前・午後のバランスを取り（現在は午前集中している）、十分な空間を保ち、マスクは必着として実施したい。「食べ歩き」や「20周年関連」「総会後の試食会」等飲食を伴うものは当面実施困難と考える。

何とも嫌な時代へ突入したものである。うどんを通じ食文化を高め、豊かな人間社会を構築するとともに相互交流と親睦を深めるための会が機能不全となっている。自宅うどんを作ればいいと言っても、道具を持たない人も多く、また粉が舞うので難しい仲間も多い。

私の好きな「うどんパーティー」もできない。自家栽培の野菜天ぷらと地粉うどんをメインにした会はいつ開けるのだろうか。一人飲みで一人うどん。何とも味気ないものである。

来年こそコロナを克服し元の生活に戻れることを祈念するのみである。



令和 2 年の麦まき

武蔵野手打ちうどんの会に参加して

増井 真由美

金木犀の香りとさわやかな風が額の汗を拭き取ってくれるような心地よい中で、左手で大きなボウルを押さえ、右手でパン粉状になるようにと手を動かした。

今日の会場は、元陸軍の施設のあった場所に建てられた「川崎市青少年の家」。敷地には当時移設された石灯籠があり、その置かれ方は不思議で当時の言い伝えにも触れることができた。

ボウルの中に残りの水分を入れていくが、天候や室内の温度にもより、粉の加減を見ながら微妙に調整していくそうである。分量通りには入れないようである。次は丸めていくのだが、ボウルの側面を使って丸めていくとよいと言われ、やってみると手のひらで丸めていくのと違い効果的だった。暫く生地をねかせ、生地に全体重をかけて足で踏んで円形にのばしていくのだが中央に低い山ができて、なかなか平たくのびては行かない。次に麺棒でのばしていくのだが、すでに私の手のひらの親指の筋肉は真っ赤に熱を持って来ていた。麺棒の使い方も外側に広げていくようにするとよいと聞き、実践すると力で押さえてのばしていくのと違い動きにリズムが出来てきた。

今回は、手打ちうどんの奥深さが少し見えてきたようにも思えた。もう少し時間があれば、生地をねかせ、のばす作業を繰り返してみたくもなった。

帰宅して早速うどんを茹でた。掻き混ぜ過ぎないようにゆでると麺が千切れず艶ま

で出て、味わいのあるうどんとなった。舞茸や獅子唐、さつま芋などの天ぷらを添えた。「ご馳走様でした。」と武蔵野手打ちうどんの会の皆様にも手を合わせた。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で今まで開催出来なかったようで本日（10月4日）が、初めてということだった。参加人員を制限し、様々な配慮をしての開催となったようである。その為かいつもよりお話も少なく静かな会となった。また、武蔵野手打ちうどん会のこと、本の紹介や八ヶ岳の自然や黒川の畑の様子、うどんの食べ方などのお話を聞くことも、この会の楽しみでもある。そんな賑やかな日が早く戻って来ることを願ってやまない。



活動報告(前号以降)

令和2年武蔵野手打ちうどん保存普及会川崎総会議決結果

会員数 45 名 (過半数 23 名) 議決権行使書回収数 38 名、よって総会成立要件を満たした。

各議案の賛否確認

第 1 号議案 承認 3 8 承認しない 0 棄権 7

第 2 号議案 承認 3 8 承認しない 0 棄権 7

第 3 号議案 賛成 3 8 反対 0 棄権 7

第 4 号議案 賛成 3 8 反対 0 棄権 7

上記の通りすべて原案が承認、可決された。

9 月 13 日 (日) 道具の点検・整備 会場：ゆうゆう広場麻生

9:00~13:30 参加 7 名 当初の予定は前日 12 日であったが、台風のため翌日に行なった。

晴天に恵まれて、計画通り順調に実施出来た。

10 月 4 日 (日) 第 1 回講習会 会場：川崎市青少年の家

10:00~12:30 参加 13 名 (内子ども 2 名) 役員 11 名

13:30~16:00 参加 5 名 役員 10 名 13:00~13:25 第 2 回役員会

これまでの経過の確認と今後の活動についての打合せをした。6 月 28 日に予定した第 1 回講習会が休止になり、川崎市青少年の家が利用可能になったので、開催にあたって人数制限、常時換気の実施、テーブルや、備品の消毒をする等、感染予防対策を徹底し、マスクの着用を呼び掛けた。

10 月 31 日 (土) さつま芋、落花生掘り交流会 会場：栗木 634 農園

9:00 役員集合 10:30 参加者集合 (黒川駅) 参加 6 名 役員 9 名

11:00 開会式の後さつまいもと落花生を収穫。次週の麦まきに備えて、有志が草刈り機や耕運機で整地してくれた。

12:30~14:00 交流会 北條鈴子さんが、さつま芋の天ぷら、稲荷ずし、豚汁、漬物などをたくさん用意してくださり、岡林さんからグリーンサラダやぬかみそ漬の提供があり、ご馳走に舌鼓をうち、和やかで賑やかな交流会になった。

11 月 7 日 (土) 麦まき 会場：栗木 634 農園 参加 8 名 9:00~12:00 500 坪の麦畑が完成



さつまいも掘り・中野さんが指導



青少年の家での講習会



橋本つね子さん (会計監査) の絵手紙

～閑話休題～ 「今年も燕ちゃんがやって来た」

副会長 舘 健三

9月初旬に種をまいた野沢菜も11月下旬には4.5回の霜に会い漬け頃になったので、昨日、収穫し一日がかりで桶に収めた。

今日は久しぶりに田中製粉から取り寄せた粉を使用して3キロほどのうどんを打ちながら、今年の燕ちゃんのことを思い出した。

富士見に遅い春が訪れた4月5日の早朝、カーテンを開けると一羽の燕がガラス戸にぶつかり脳震とうを起こしたのが今年初めての訪問である。

その後、つがいに来て早速、営巣に取り掛かったのが昨年親鳥か、子どもかは定かではない。

抱卵したのは5月8日、うずらの卵の半分ほどの卵からひなが誕生したのは23日ころと記憶している。そして6羽のひなが巣立ちしたのは薄曇りの6月13日の午前中であつた。ひな鳥がひと月余りの短い期間に飛び立つまでに成長するとは驚きである。

その後、親鳥が2度目のひな4羽を育て、東南アジアに飛びたつた。小さな燕ちゃんが成鳥になるのは一割ほどと言われている。途方もない長旅のことを思うと頷ける。

一路平安



令和2年収穫祭

今後の予定

12月6日(日) 第2回講習会 会場: 高津高等学校料理室 第3回役員会

令和3年1月~2月 天候を見ながら麦踏み

令和3年2月13日(土) 8:30~あそびの寺子屋 会場: 中原小学校

令和3年3月7日(日) 第3回講習会 会場: 高津高等学校料理室 第5回役員会

ウドンウドンウドンウドンウドンウドン あとがき ウドンウドンウドンウドンウドンウドン

増井さんは講習会に参加は3回目とのことですが、上出来なので初対面に拘わらず原稿をお願いしました。初心者とは思えぬ観察眼と技巧の持ち主で、ご協力に感謝です。

新型コロナウイルス感染拡大は、一旦収まるかと思いましたが、11月に入って全国的に感染者が急増して深刻な状況になっています。

「麦穂だより」の発行も遅れがちですが、第2

回講習会が高津高等学校で開催出来れば当会に希望の光が射し込んでいる思いがします。

Jリーグの開幕が遅れて、無観客試合から始まりました。過密スケジュールの中で圧倒的な強さで2年ぶり3度目の優勝を決めた川崎フロンターレの活躍も明るいニュースです。コロナ禍にめげず元気に明るく乗り切りましょう。(光)